

TRILL ART CLASS通信

2025年5月号

アートクラスの先月の活動

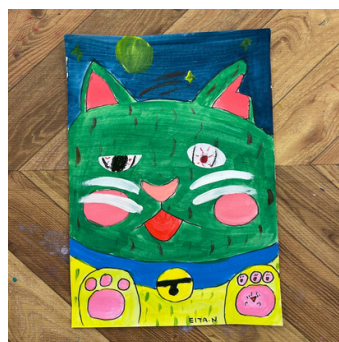
幼児クラス

幼児クラスでは、ネコをモチーフにした制作に取り組みました！色画用紙の上に好きな顔の形を貼り付けて、思い思いの表情を書き込んでいきます。最後に好きな色の絵の具で彩色をしたら世界に1匹の楽しいネコの出来上がりです♪本当にいそうなかわいいネコから、アメイジングなカラフルネコまで、色々な子が飛び出してくる楽しい活動でした(^^)



小学生クラス

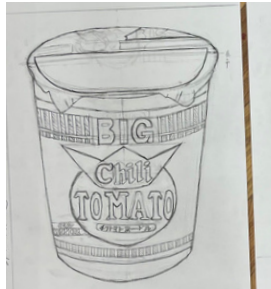
小学生クラスでは、数字をモチーフにした絵画制作に取り組みました！画用紙に書いた数字の線の中にカラフルな画用紙を貼り付けて、数字の形が遠くからでも視認できる様にデザインしていきます。今回は、日常でも勉強でもよく目にする数字というモチーフを、改めて制作して이었습니다。その過程で、見慣れた形に新しい色形を与えることで新鮮な発見をすることができました。これからも、アートを通じて、見慣れたものの見え方が変わる経験をしていってくれたら嬉しいです(^^)



絵画・デッサンクラス

絵画クラスでは、カップヌードルをモチーフにして絵画を制作しました！このパッケージは50年以上にわたって愛された名作のデザインであり、文字組やレイアウトにも隙がありません。良いデザインを観察することで、みんなもセンスを磨いていって下さいね(^^)

デッサンイラストクラスでは、春をテーマにしたイラスト作品を制作しました！春らしいってなんだ？と考えながら、背景のモチーフやキャラクターのカラーリングをアレンジしながら、制作を進めて行きます。この作品は、今年度最初の作品となりますが、年度末に同じ絵を見た時に「4月の自分、まだまだだな。」と思えるようになると良いですね！



おおぞら先生のちょこっとコラム

エントリーモデルの話

皆さんは「エントリーモデル」という言葉を見聞きされたことはありますか？車が好きな方や、PC等のガジェットが好きな方などは、よくご存じかと思いますが、「エントリーモデル」とは、「初心者向けの手に取りやすい価格の商品」のことを指します。

商品の世界に限らず、文化やスポーツの世界にも、「エントリーモデル的なもの」があります。初心者向けの講座や、少年野球のような「初めての人大歓迎」のサービスや教室がそれにあたります。そういったサービスの目的は「この楽しい文化やスポーツの楽しさを、一人でも多くの人に知ってもらう」とことです。平たく言うと「すそ野を広げる」というやつです。

すそ野が広がらないと、その文化やスポーツの業界は衰退していきます。たとえ、どんなに、歴史的な偉業を達成する偉人が現れたとしても、そのスポーツや文化に興味がない人からしたら「知ったこっちゃない」わけですから。凄い物や人や技術を、「すごい！」と称えるためには、「この凄いことは、なぜ凄いのか。どう凄いのか。」がわかっている人が必要です。そういう「わかる人＝一緒に楽しむ仲間」を増やすための大切な手立てが、エントリーモデルというわけです。

さて、ここで視点を「アートの世界」に移します。私、講師の山田はかれこれ20年近くこの業界に片足を突っ込んでいるわけですが、そこでずっと感じてきたことがあります。それは、このアートの世界では慢性的に「エントリーモデル」が不足している、ということです。現代アートの作品展に行くと、大半の作品は玄人向けの「よくわからん」ものが多いように思います。そうすると、初めてアートに触れる人は「なんかよくわからなかった。アートおもんない」となってしまう。それは大変にもったいないことです。※もちろん「よくわからん」の壁を越えて何かを感じさせる作品も、たくさんありますよ！

なぜこんな風になっているのか？理由は実はシンプルです。アーティストを目指す若者は「アーティストや業界人」に認めらることで作家になるチャンスをもにしようと精進をしています。結果、多数の作家が「玄人(わかる人)向け」の作品を作るようになる、という構造があります。そうすると、逆説的にエントリーモデル的なわかりやすい作品を作ることは「あさい」とか「わかってない」と低い評価をされがち、という構造も成立し、それがエントリーモデル不足の理由として大きいように思います。

たとえば言うと、お寿司屋さん全員が「銀座の一流店」を目指してしまい。新社会人が、初任給で少し背伸びして入ってみたい「街のお寿司さん」が一向に増えない。という事が起こっている。もちろん銀座の一流店には、譲れない矜持やほりがある。それは本当に素晴らしいことです。でも、それだけでは、「寿司」という文化はごく一部の貴族様の食べ物として、一般には広がらず衰退していく。そうなっていないのは、エントリーモデルや中級者向けのサービスが充実しているからです。

僕がアートクラスで、子ども達に作る楽しさや創造する面白さを伝えているのは、第一に子ども達の成長にアートが良い影響を与えられると確信しているから、という動機があります。が、そこに加えて、アートを見る目や感じる感性を持った子ども達を育てることが「アートの世界の未来」につながることも感じている、という動機も存在しています。

子ども達の成長のお役に立ちながら、アートの「エントリーモデル」として大好きなアートの世界のすそ野を広げたい、という二つの願いをもって、頑張りたいと思っていますので、今月もお付き合いの程、何卒よろしくお願いいたします。

今月の活動予定は[こちら](#)